

芸術人間学特講		通年 4 単位	
自然・技術連関・芸術		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	本科で学んだ芸術人間学をさらに深め、自分の制作、論文作成等と結びつけ、芸術を総合的に勉強することを目指す。本科及び専攻科での勉強を通じて芸術人間学を明らかにする。授業に参加し、必要に応じて自分の考えをまとめ発表することを訓練する。		
授業計画	【前期】 第1回 序論－芸術人間学のまとめと展望 第2回 芸術と価値 第3回 超越的価値との関わり 第4回 <よく生きること>と芸術 第5回 芸術創造と観照－プラトンの「美の学」 第6回 理性による美の発見－諸芸術の比較 第7回 芸術と宗教－聖書と芸術 第8回 孔子の芸術哲学－超越の問題 第9回 芸術解釈の構造 第10回 解釈学－リクールとガダマー 第11回 人間の生活と洞窟絵画－原始芸術の意味 第12回 原色の時代－現代における「生」の意味 第13回 模倣と表現－芸術の東西比較 第14回 東洋絵画の本質－気韻生動 第15回 まとめ、夏休みの課題と文献紹介	【後期】 第1回 前期のまとめ－芸術解釈と価値 第2回 日本の美学1－歌論 第3回 日本の美学2－能楽論 第4回 日本の美学3－自然と芸術 第5回 日本の美学4－芸術と人生 第6回 日本の美学5－芸術に於ける「間」の問題 第7回 芸術と空間論－抽象化と現実 第8回 芸術と時間論－音楽的時間 第9回 美の現象学－芸術作品の層構造 第10回 芸術と象徴－カッシーラー 第11回 ニーチェの美学 第12回 想像力の構造－バシュアール 第13回 自然の五元素と想像力 第14回 現代芸術における想像力の問題 第15回 まとめ、芸術人間学の総論	
進め方	我々の環境は自然だけでなく、機械と機械とが機能的に且つ有機的に結びついた技術連関でもある。技術連関は技術と芸術との共生の可能性を実現しているが、その環境の中で生きる我々は、時間的存在という人間性の本質を喪失している。時間性をその根源とする芸術は、技術連関に於いて人間性を回復させる力を持つ。このことを講義形式で明らかに		
テキスト	要に応じてプリントを使う。またその都度授業の中で指定する。 今道友信著『美について』（講談社現代新書）	参考文献	今道友信編『講座美学』1～5（東京大学出版会） その他授業の際に紹介する。
評価方法	レポート（2回以上）：70% 出席及び授業参加態度：30%		

環境芸術論		通年 4 単位	
芸術の複合・総合への試み		田島 俊雄 (たじま としお)	
ねらい	現代の私達の生活環境はめまぐるしく変化しながら展開されていて、ともすると人間そのものの基底さえ見えにくくなっている。元来人間は何処に向かって生きてきたのか。本講は、芸術の自己や社会、そして人間全体にとっての意義を熟慮しつつ、然るべき理念を自らの内に築くことを目的とする。		
授業計画	【前期】 第1回 環境・芸術について 第2回 日本の工芸文化について 第3回 素材と技術 1 第4回 素材と技術 2 第5回 素材と技術 3 第6回 素材・技術と表現 1 第7回 素材・技術と表現 2 第8回 素材・技術と表現 3 第9回 素材・技術と形態 I-1 第10回 素材・技術と形態 I-2 第11回 素材・技術と形態 I-3 第12回 素材・技術と形態 II-1 第13回 素材・技術と形態 II-2 第14回 素材・技術と形態 II-3 第15回 まとめ	【後期】 第1回 芸術の複合・総合に向かって 第2回 思想と表現 第3回 抽象への試み I-1 第4回 抽象への試み I-2 第5回 抽象への試み I-3 第6回 抽象への試み II-1 第7回 抽象への試み II-2 第8回 抽象への試み II-3 第9回 複合・総合への試み I-1 第10回 複合・総合への試み I-2 第11回 複合・総合への試み I-3 第12回 複合・総合への試み II-1 第13回 複合・総合への試み II-2 第14回 複合・総合への試み II-3 第15回 まとめ	
進め方	身近な我国の文化のルーツを尋ねることから始め、現代芸術の基礎を築いた芸術家達の創造的な試みを紹介しつつ講述する。画集やスライドを多用することにも努めたい。		
テキスト		参考文献	適宜紹介する。
評価方法	レポート：50% 出席：50%		

美学特講		通年 4 単位	
美学の現代的課題（美学の問題の共有と、その問題意識の深化）		樋笠 勝士（ひかさ かつし）	
ねらい	本講座は基本的にはゼミナールの形式を取るのので、例えば芸術現象の様々な具体的な場面を素材にするなどしてディスカッションを心がけたい。同時に履修者のそれぞれの専攻内容や考えたい領域なども生かして、それらを各自自由に取り上げて調査・分析・解釈・発表などすることを通じて、相互に理解し合うような場もつくりたい。授業に対する履		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 打ち合わせ：前期は、履修者と相談の上、各人の研究や個性を生かした自由発表の予定。</p> <p>第2回 「美学」の問題について1</p> <p>第3回 「美学」の問題について2</p> <p>第4回 自由発表1</p> <p>第5回 自由発表2</p> <p>第6回 自由発表3</p> <p>第7回 自由発表4</p> <p>第8回 自由発表5</p> <p>第9回 自由発表6</p> <p>第10回 自由発表7</p> <p>第11回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第12回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第13回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第14回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第15回 総評</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 後期は作品鑑賞等を通じたディスカッションを中心にする予定。</p> <p>第2回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第3回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第4回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第5回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第6回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第7回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第8回 中間総括</p> <p>第9回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第10回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第11回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第12回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第13回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第14回 作品鑑賞と討論会</p> <p>第15回 総評</p>	
進め方	ゼミ形式で進める。		
テキスト	授業中に指示する。	参考文献	授業中に指示する。
評価方法	プレゼンテーション:40% 平常点:30% 出席:30%		

美術史特講		通年 4 単位	
フランス美術研究：新古典主義とロマン主義		大野 芳材（おおの よしき）	
ねらい	フランス革命から19世紀はじめにかけて、フランス美術は新古典主義とロマン主義へと大きく旋回する。それぞれの表現の特質を、ダヴィッドやアングル（新古典主義）、ジェリコーやドラクロワ（ロマン主義）の作品を手がかりに考えたい。それぞれが誕生し発展した社会的な背景を、ヨーロッパの歴史のなかで考える。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 フランスのロココ美術</p> <p>第3回 革命前のダヴィッド</p> <p>第4回 ダヴィッドとナポレオン</p> <p>第5回 ジェリコー</p> <p>第6回 ヨーロッパのロマン主義：イギリス</p> <p>第7回 ヨーロッパのロマン主義：スペイン</p> <p>第8回 ヨーロッパのロマン主義：ドイツ</p> <p>第9回 ドラクロワ（1）</p> <p>第10回 ドラクロワ（2）</p> <p>第11回 アングル（1）</p> <p>第12回 アングル（2）</p> <p>第13回 クールベ</p> <p>第14回 マネ</p> <p>第15回 ロマン主義と現代</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 後期をはじめめるにあたりイントロダクション</p> <p>第2回 第一文献研究（1）</p> <p>第3回 第一文献研究（2）</p> <p>第4回 第一文献研究（3）</p> <p>第5回 第二文献研究（1）</p> <p>第6回 第二文献研究（2）</p> <p>第7回 第二文献研究（3）</p> <p>第8回 第三文献研究（1）</p> <p>第9回 第三文献研究（2）</p> <p>第10回 第三文献研究（3）</p> <p>第11回 第三文献研究（4）</p> <p>第12回 第四文献研究（1）</p> <p>第13回 第四文献研究（2）</p> <p>第14回 第四文献研究（3）</p> <p>第15回 第四文献研究（4）</p>	
進め方	前期：スライド、ビデオなどを用いた講義。学生の発表も織り交ぜるので、積極的な授業参加を期待する。展覧会見学も行う。 後期：新古典主義とロマン主義について書かれた論文を精読する。展覧会見学も行いたい。		
テキスト	授業中に指示。後期のテキストはコピーを配布。	参考文献	各種画集など、授業中に指示
評価方法	レポート（4000字程度）：60% 前期展覧会レポート（2000字程度）：20% 出席・発表点：20%		

芸術特別研究（制作・論文）	通年 8 単位	
<p>【担当教員】 阿久津 光子（あくつ みつこ）、大野 芳材（おおの よしき）、趙 慶姫（ちょう きょんひ）、橋本 典子（はしもと のりこ）、淀井 彩子（よどい あやこ）</p> <p>【ねらい】 本科の「卒業研究」で達成し得たことを更に深める。</p> <p>【授業内容】 各専攻の中で自主的に追求し、学年末に一年間のまとめとして作品または論文を提出して修了展に発表する。各専攻ごとの内容は次の通りである。</p> <p>○制作系：修了制作は、課題作品と自由作品の二種を提出する。</p> <p> <絵画専攻> 課題作品／人物 油絵80号以上1点。 自由作品／油絵80号以上1点および版画。</p> <p> <デザイン専攻> 課題作品／平面（S80号以上）1点または立体。 自由作品／平面（S80号以上）1点または立体。</p> <p> <織専攻> 課題作品／織作品（100cm×200cm）1点。 自由作品／織作品（70cm×90cm）1点。</p> <p>○論文系：修了論文題目と論文の提出期限は次の通り。</p> <p> 論文題目／提出期限 2008年10月15日（水）午後4時30分（厳守） 修了論文／提出期限 2009年 1月14日（水）午後4時30分（厳守） 論文枚数 400字詰め原稿用紙50枚以上 提出先／教務課</p> <p>【進め方】 各自、それぞれのテーマに従って、教員の個別指導のもとに自主的な追求が中心となる。</p> <p>【評価方法】 前期末および学年末の年2回にわたり、本学科全専任教員および全実技系教員により、学生1人ずつの合同講評会を行ない総合評価をする。 前期講評会 35% 後期講評会 65%</p>		

芸術各論	通年 4 単位	
<p>【担当教員】 阿久津 光子（あくつ みつこ）、大野 芳材（おおの よしき）、趙 慶姫（ちょう きょんひ）、橋本 典子（はしもと のりこ）、淀井 彩子（よどい あやこ） 各自の専攻した「芸術特別研究」の支えとなる科目で、専攻した分野の教員の指導のもとに学ぶことを原則とする。内容や進め方については、各専攻ごと学生のテーマに応じて担当の教員が年度初めに定めるが、「芸術特別研究」の充実に資することを目的とする。展覧会鑑賞を含む。</p> <p>【評価方法】 「芸術特別研究」と併せた平常点による。平常点 50% 出席点 50%</p>		

芸術文献講読 I		通年 4 単位	
芸術英語文献演習		橋本 典子 (はしもと のりこ)	
ねらい	基礎的英語力を養い、英語で書かれた芸術論や芸術作品の解釈の文献を読解しこれを深く理解することを目的とする。特に、作品解釈や背景となる思想については独自に調べ発表することが要求される。		
授業計画	【前期】 第1回 序論－英語圏の芸術論 第2回 現代の芸術論の問題 第3回 テキストの紹介 第4回 テキスト確定、テキストの購読と解釈 第5回 テキストの購読と解釈1 第6回 テキストの購読と解釈2 第7回 テキストの購読と解釈3 第8回 テキストの購読と解釈4 第9回 テキストの購読と解釈5 第10回 テキストの購読と解釈6、参考作品の考察 第11回 テキストの購読と解釈7 第12回 テキストの購読と解釈8 第13回 テキストの購読と解釈9 第14回 テキストの購読と解釈10 第15回 前期のまとめ	【後期】 第1回 序論－テキスト紹介、テキスト確定 第2回 テキストの購読と解釈1 第3回 テキストの購読と解釈2 第4回 テキストの購読と解釈3 第5回 テキストの購読と解釈4 第6回 テキストの購読と解釈5 第7回 テキストの購読と解釈6 第8回 テキストの解釈と発表(全員) 第9回 テキストの解釈と発表1 第10回 テキストの解釈と発表2 第11回 テキストの解釈と発表3 第12回 テキストの解釈と発表4 第13回 テキストの解釈と発表5 第14回 テキストの解釈と発表と具体的作品例の検討 第15回 まとめ	
進め方	受講者が積極的に関わる演習形式で授業は行なう。受講生は英語の文献を読み、文献に書かれた内容について発表し討論する。特に21世紀の新しい芸術との関わりを追究したい。前期・後期共に試験を行う。必ず出席すること。		
テキスト	授業のテキストは受講の意向を重視するが、プリントを渡し、それを使用する。	参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。
評価方法	出席及び授業参加態度:50% 試験:40% 発表:10%		

創作論 (後期)		通年 4 単位	
		阿久津 光子 (あくつ みつこ)	
ねらい	現代における芸術表現は多様であり、さらに芸術がいかに生活環境と関連しているかを考えると、自らの芸術観を築くことの大切さが求められる。本稿では学生が創作における視野を広げ、その軸となるものを自ら考察していくことをめざす。		
授業計画	【前期】 第1回 芸術とデザイン 第2回 原始のものづくり (自然の中で～素材と芸術) 第3回 自然との対話 第4回 色彩を求めて (自然の中で～素材と色彩) 第5回 色彩と表現 第6回 生活と芸術1 第7回 生活と芸術2 第8回 生活と芸術3 第9回 生活と芸術4 第10回 学生の発表と意見交換 第11回 環境と芸術1 第12回 環境と芸術2 第13回 環境と芸術3 第14回 環境と芸術4 第15回 まとめ	【後期】	
進め方	創作の実作者の観点から、興味深い作家や作品を取り上げながら、画集やスライドを使用して講述する。できるだけ意見交換の場をもちたい。関連するビデオや展覧会鑑賞を含む。		
テキスト	特に定めず、資料を配布する。	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点:50% レポート:50%		

創作論（前期）		通年 4 単位	
人間はなぜ、創造活動を行うのか		淀井 彩子（よどい あやこ）	
ねらい	先史時代の芸術の発生から現代まで、一貫して表現されてきた核になるものについて考察する。芸術と人間についてその意味を理解し、学生自身の創造性の視野を広げ表現内容を深めていく。		
授業計画	【前期】	【後期】	
	第1回 人間はなぜ、表現活動を行うのか 第2回 先史時代の洞窟美術 第3回 フランス、スペインの洞窟遺跡 第4回 具像と抽象 第5回 平面と立体 第6回 模倣と創造 第7回 環境と人間と芸術 第8回 現代の環境芸術 第9回 女性の芸術表現 第10回 “ 第11回 学生自身の造形表現について 第12回 空想美術館 第13回 人間と芸術 第14回 “ 第15回 まとめ		
進め方	画集、DVD、ビデオなどを用い講義を進める。実技担当者による講義科目であるので、画家の観点を重視して講述するよう努めたい。できるだけ多くの意見交換の場をもちたい。美術館、画廊の展覧会紹介と鑑賞を含む。		
テキスト		参考文献	授業中に適宜紹介する
評価方法	平常点:50% 前期・後期レポート:50%		

意匠学		通年 4 単位	
欧米や日本における近代デザインの源泉とその展開をたどり、現代の社会と生活を見直して、これからのモノづくり、環境づくりを考える。		椎原 晶子（しいはら あきこ）	
ねらい	18～19世紀、欧米・日本等各国の工業化による大量生産、大量流通は、社会構造に大きな変化をもたらした。それ以前の手工芸時代と比較しつつ、近代技術と芸術、産業の有意義な統合を求めた近代デザインの展開を振り返り、現代の生活環境に与えた意義や課題を整理する。そこから、今後の持続可能なモノづくり、環境づくりのあり方を考える。		
授業計画	【前期】	【後期】	
	第1回 産業革命、工業化、近代社会の産業とモノづくり 第2回 ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ運動 第3回 マッキントッシュとグラスゴー派の実践 第4回 日本の工芸・美術とジャポニズム 第5回 アールヌーヴォーの潮流 第6回 ウィーン分離派とウィーン工房vs. 装飾と罪悪 第7回 オランダの近代運動、ロシア構成主義 第8回 ドイツ工作連盟-芸術と産業の積極的統合 第9回 パウハウスI-造形理念と教育システム、実践活動 第10回 近代建築の理想：ル・コルビュジェとミース 第11回 都市生活とアールデコのデザイン 第12回 日本の生活改善運動、民芸運動 第13回 戦後のインダストリアルデザイン 第14回 デザインシヨールーム等見学 第15回 現代の社会環境とデザイン	第1回 日本デザインの源流1:陶芸 第2回 日本デザインの源流2:漆工 第3回 日本デザインの源流3:木工 第4回 日本デザインの源流4:織物 第5回 日本デザインの源流5:染色 第6回 日本デザインの源流6:金工 第7回 日本デザインの源流7:絵巻物、屏風、襖 第8回 日本デザインの源流8:書院・数寄屋・庭園風 第9回 日本デザインの源流9:風土と民家 第10回 日本デザインの源流10:町家と町並み 第11回 現代のデザイン2:成熟するインダストリアルデザイン 第12回 現代のデザイン3:情報、イメージのデザイン 第13回 現代のデザイン4:環境のデザイン 第14回 現代のデザイン5:地域性とデザイン、市民参加 第15回 環境デザイン見学	
進め方	前期は、産業革命以降の欧米日本における近代デザイン運動の理念と実践例に触れて、近代社会の中でデザイン運動が果たした役割を理解する。後期は、日本のデザインの源流を成す道具や住まいづくりの特徴を概観した上で、戦後から現代に至るデザインの取り組みと課題を把握し、今後の私たちの生活と環境づくりについて考察する。		
テキスト	『世界デザイン史』阿部公正監修、美術出版社	参考文献	『日本デザイン史』竹原あき子+森山明子監修、美術出版社、『20世紀はどのようにデザインされたか』柏木博、晶文社、『現代デザイン論』藤田治
評価方法	レポート:50% 授業態度・提出物:30% 出席:20%		

工芸		通年 2 単位	
日常使いできる金属小物（カトラリーやアクセサリ等）のデザイン及び制作		山田 瑞子（やまだ みずこ）	
<p>ねらい</p> <p>“工芸”という言葉は用の美を意味します。 この授業では金属（主に銀）を用いて実際に使える小物を作ります。 独自のアイディアを出し、デザインをして、いかに具現化していくかを体験します。</p>			
授業計画		<p>【前期】</p> <p>第1回 銀の透かし彫り小物制作（ペンダント、壁掛け等）</p> <p>第2回 銀の透かし彫り小物制作</p> <p>第3回 銀の透かし彫り小物制作</p> <p>第4回 銀の透かし彫り小物制作</p> <p>第5回 銀の透かし彫り小物制作</p> <p>第6回 銀の透かし彫り小物制作</p> <p>第7回 すり出しのリング制作</p> <p>第8回 すり出しのリング制作</p> <p>第9回 すり出しのリング制作</p> <p>第10回 すり出しのリング制作</p> <p>第11回 すり出しのリング制作</p> <p>第12回 すり出しのリング制作</p> <p>第13回 鑑付け技法を用いたリング制作</p> <p>第14回 鑑付け技法を用いたリング制作</p> <p>第15回 鑑付け技法を用いたリング制作</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 鑑付け技法を用いた小物制作</p> <p>第2回 鑑付け技法を用いた小物制作</p> <p>第3回 鑑付け技法を用いた小物制作</p> <p>第4回 鑑付け技法を用いた小物制作</p> <p>第5回 鑑付け技法を用いた小物制作</p> <p>第6回 鑑付け技法を用いた小物制作</p> <p>第7回 金鍍で打つ小物制作（小皿、スプーン等）</p> <p>第8回 金鍍で打つ小物制作</p> <p>第9回 金鍍で打つ小物制作</p> <p>第10回 金鍍で打つ小物制作</p> <p>第11回 金鍍で打つ小物制作</p> <p>第12回 金鍍で打つ小物制作</p> <p>第13回 金鍍で打つ小物制作</p> <p>第14回 金鍍で打つ小物制作</p> <p>第15回 金鍍で打つ小物制作</p>
進め方		実習中心で進めていく、但し時間が少ないので各自充分に考えて、休まず取り組んでもらいたい。	
テキスト		特になし	参考文献 その都度用意する
評価方法		平常点（出席を含む）：70% 作品の評価：30%	

キリスト教と文化		通年 4 単位	
C. S. Lewisとキリスト教		伊藤 勝啓（いとう かつひろ）	
<p>ねらい</p> <p>C. S. ルイス（1898—1964）の生涯を通して、その信仰と知性の在り方を学び、今日の文化に欠落しているものは何かを一緒に考える。</p>			
授業計画		<p>【前期】</p> <p>第1回 概要説明＋このコースを取った理由と自己紹介</p> <p>第2回 ルイスの幼・少年時代</p> <p>第3回 母の死と家を離れる</p> <p>第4回 学校生活、兄と友人</p> <p>第5回 カーク・パトリック夫妻とともに</p> <p>第6回 第一次世界大戦の中で</p> <p>第7回 ミセス・ムーアとルイス</p> <p>第8回 信仰にいたる巡礼</p> <p>第9回 クリスマスとなってからの文学活動</p> <p>第10回 第二次世界大戦</p> <p>第11回 ナルニア国物語</p> <p>第12回 最愛の人Joy Davidman Greshamに会うまで</p> <p>第13回 Joyとの短い結婚生活</p> <p>第14回 ルイス最後の日々</p> <p>第15回 ルイスとキリスト教</p>	<p>【後期】</p> <p>第1回 発表と論評</p> <p>第2回 同上、2</p> <p>第3回 同上、3</p> <p>第4回 同上、4</p> <p>第5回 同上、5</p> <p>第6回 同上、6</p> <p>第7回 同上、7</p> <p>第8回 同上、8</p> <p>第9回 同上、9</p> <p>第10回 同上、10</p> <p>第11回 同上、11</p> <p>第12回 同上、12＋クリスマス祝会</p> <p>第13回 同上、13</p> <p>第14回 同上、14</p> <p>第15回 最後の論評とまとめ</p>
進め方		講義を中心とするが、その間ルイスの作品を直接朗読してもらい、後期はレジメを作り、クラスで発表・討論し、論評を加える。	
テキスト		参考文献	C. S. ルイス『喜びのおとずれ』 これはルイスの自伝にあたるものでは非読むようにすること。また、コーレンの『ナルニア国をつくった人』を読む
評価方法		出席：50% 発表：50%	